



生き生き柁城

やる気・元気・根気

No.446

令和3年2月5日



いきいき柁城ブログ QR

「根気」を育てましょう

校長 鶴 潔

3日は立春で暦の上では春になりました。学校の周りは梅の花がちらほらと開花し、コブシの花のつぼみも膨らんできています。確実に春が近づいているのを感じます。同時に木々が冬の寒さに耐え忍びながら、来たるべき春のために根気強く力を蓄えていることが分かります。

今回のテーマは、柁城の子のキャッチフレーズ「やる気、元気、根気」の中の「根気」です。

根気とは、物事をあきらめずに辛抱強く続ける気力のことです。そして、根気強さは子どもの将来を支える大切な資質と考えます。では、根気は、どのようにして子どもに培われるのでしょうか。それは、「あきらめたい、投げ出したい」と思う状態を乗り越えられたときだと考えます。つまり、あきらめずにやり遂げた経験が多いほど根気は強くなり、逆に何事もすぐに投げ出す子どもの根気はなかなか成長しません。

子どもたちの根気を強くする機会はたくさんあります。例えば持久走、九九、リコーダーの演奏、お手伝い等、挙げればきりがありません。その中でも最たるものが、宿題だと思えます。長く教師生活をしていますが、「宿題が大好きです。」と言う子どもには、なかなか出会えません。その理由は、繰り返しの練習や作業が多いからです。算数の計算や国語の漢字、社会や理科の用語は、繰り返しの学習でしか身に付けることができません。そして繰り返して身に付けるものの多くは、学習の基礎的・基本的内容であり、今後の学習を支える非常に重要なものです。そのため授業で学んだら、できるだけ早く確実に身に付ける必要があります。家庭学習には、授業だけでは習熟しにくい学習内容を身に付けるという大切な役割があります。同時に子どもの根気も伸ばしていく営みです。

そして、子どもの根気を伸ばす原動力の一つに「自分ならやり遂げられる」という自己肯定感があると考えます。自己肯定感とは、他者から認められることで伸びます。大好きな御家族が「あなたならできる」と信じ、言葉に出して子どもを応援しましょう。「こんなことも、できないの。」ではなく、「ここまでは、できているね。」と認めていくことで自己肯定感を育て、根気も育てることが出来ます。

子どもの状況を見て適切なアドバイスを行うことは、親の根気を試されることでもあります。

本年度も残り2か月です。年間の学習内容を確実に身に付け、次の学年へ希望をもって臨める準備をする大切な時期です。

